

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年2月13日

予報期間：2月15日～3月14日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

東・西日本と沖縄・奄美では、期間の前半は気温がかなり低くなる見込みです。また、期間の前半は北・東・西日本の日本海側を中心に降雪量がかなり多くなる可能性があります。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
東日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
東・西日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報

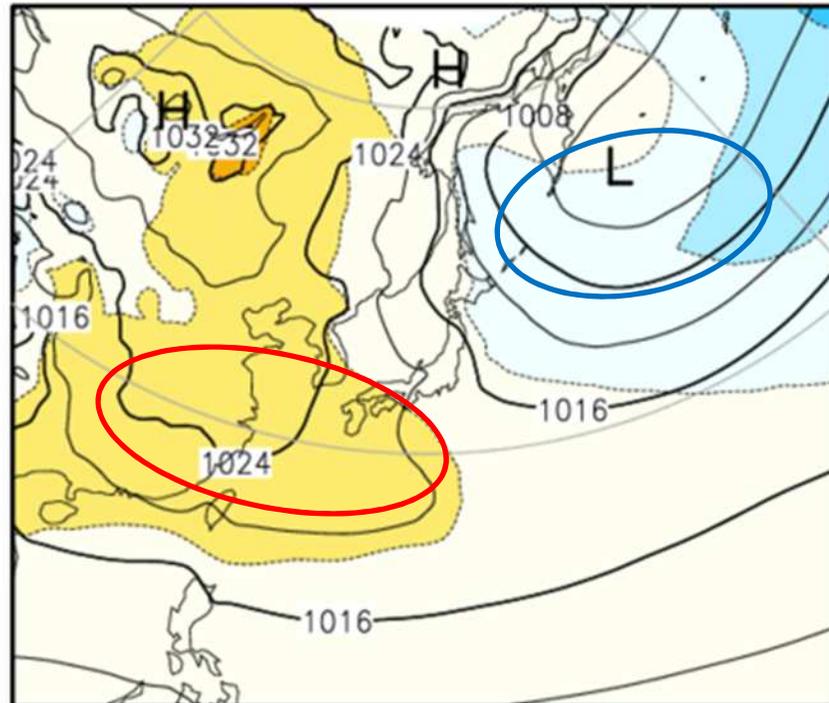
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	20:40:40	20:40:40	40:30:30	20:40:40
	太平洋側		30:30:40	40:30:30	
東日本	日本海側	50:30:20	20:40:40	40:40:20	10:40:50
	太平洋側		50:40:10	20:30:50	
西日本	日本海側	50:40:10	30:40:30	30:40:30	20:30:50
	太平洋側		50:30:20	20:40:40	
沖縄・奄美		60:30:10	40:40:20	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	20:50:30	20:50:30	20:30:50
東日本	60:30:10	60:30:10	30:30:40
西日本	80:10:10	70:20:10	30:40:30
沖縄・奄美	80:10:10	80:10:10	30:40:30

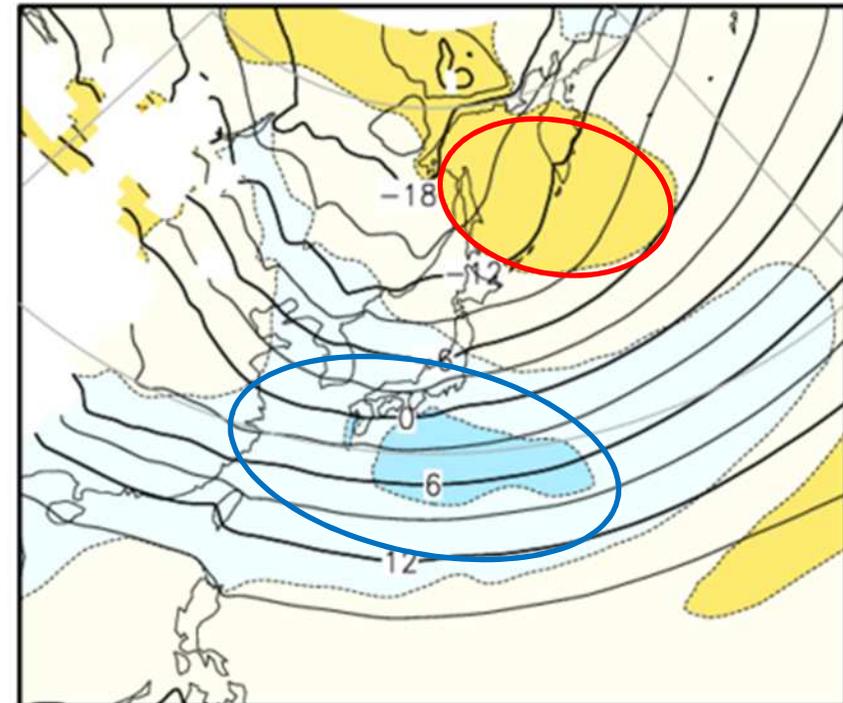
全般予報のポイント

- ・北日本では、期間の後半に寒気の影響を受けにくいいため、向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。
- ・東・西日本と沖縄・奄美では、期間の前半に寒気の影響を受けやすいため、向こう1か月の気温は低いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり低くなる見込みです。
- ・期間の前半に冬型の気圧配置が強まる時期があり、期間の後半は北日本を中心に低気圧の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は北・東日本日本海側で平年並か多く、日照時間は東日本日本海側で平年並か少ないでしょう。向こう1か月の降雪量は北日本日本海側で平年並か多く、東・西日本日本海側で多いでしょう。特に、期間の前半は降雪量がかなり多くなる可能性があります。
- ・東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では低気圧の影響を受けにくい時期があるため、向こう1か月の降水量は東・西日本太平洋側で少なく、沖縄・奄美で平年並か少ないでしょう。向こう1か月の日照時間は東日本太平洋側で多く、西日本太平洋側で平年並か多いでしょう。

海面気圧(1か月)



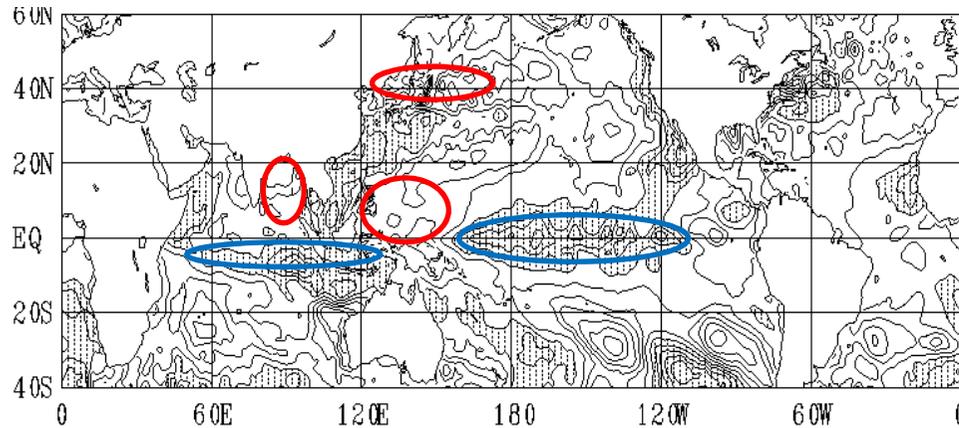
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、カムチャツカの東を中心に平年より低く、シベリア高気圧が日本の南に張り出し、期間の前半は北・東日本を中心に冬型の気圧配置が強まる時期があるでしょう。また、期間の後半は北日本を中心に低気圧の影響を受けやすい時期がある見込みです。東・西日本太平洋側では低気圧の影響を受けにくい時期があるでしょう。

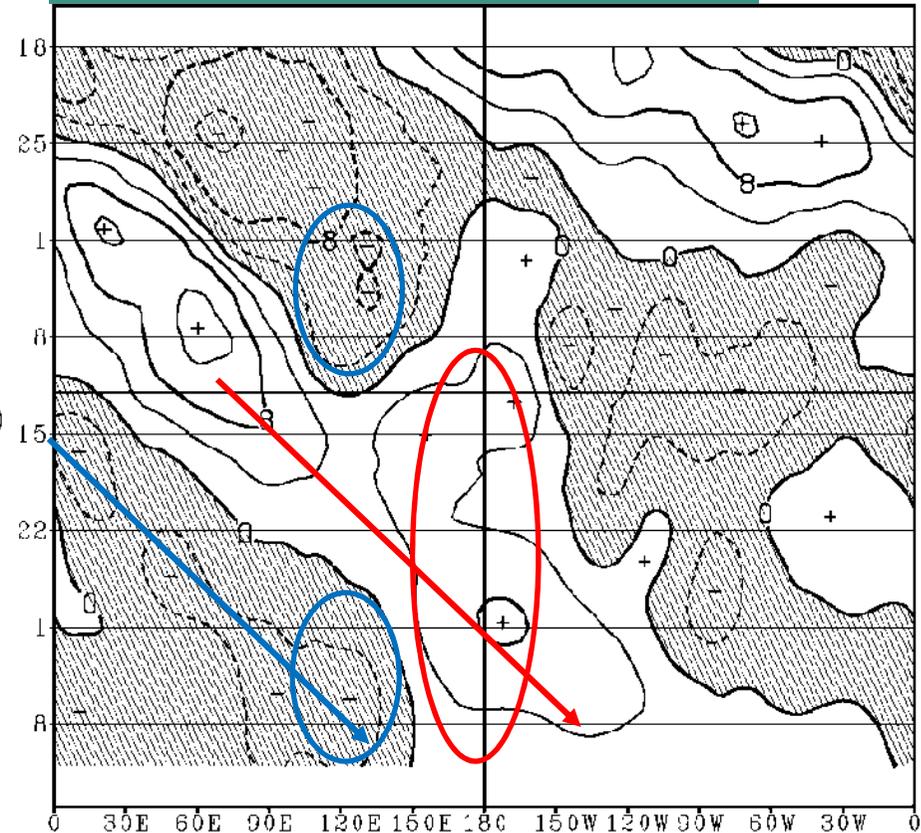
上空約1500mの気温(右図)は、日本の南で平年より低く、東・西日本と沖縄・奄美では期間の前半に寒気の影響を受けやすいでしょう。一方、オホーツク海から千島近海にかけて平年より高く、北日本では期間の後半は寒気の影響を受けにくいでしょう。

SST偏差



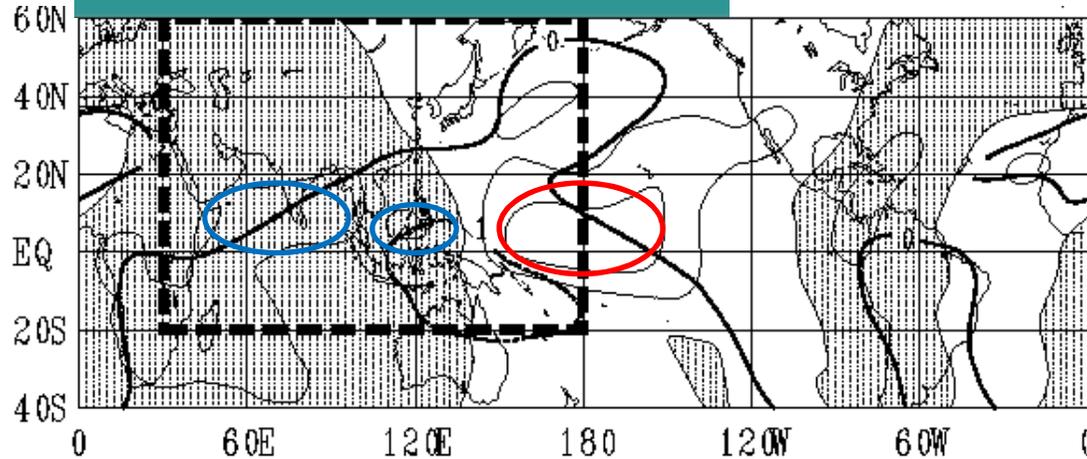
熱帯域では、インド洋の南半球側で負偏差。ベンガル湾と太平洋西部で正偏差。太平洋赤道域中部を中心に負偏差。日本海北部から日本の東にかけて正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



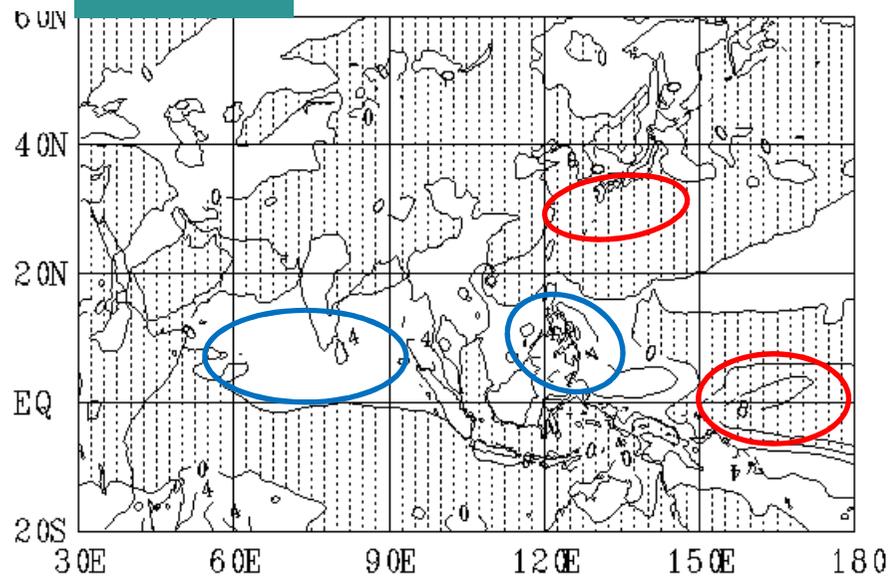
1、2週目は対流不活発域がインドネシア付近を東進するが、3～4週目はインド洋からインドネシア付近にかけて対流活発となる。

200hPa速度ポテンシャル



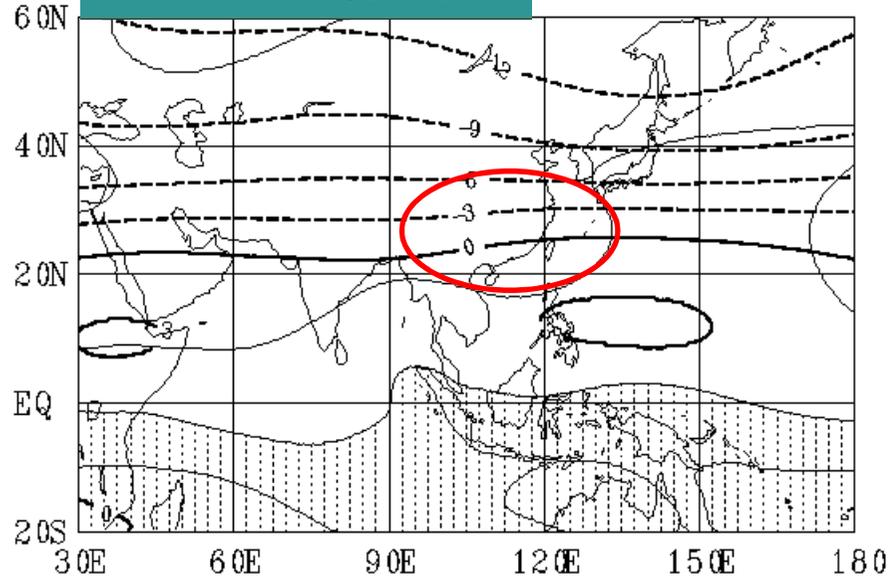
熱帯のSSTに起因する対流活動に対応して、インド洋と南シナ海を中心に上層発散偏差、日付変更線付近で上層収束偏差。

降水量



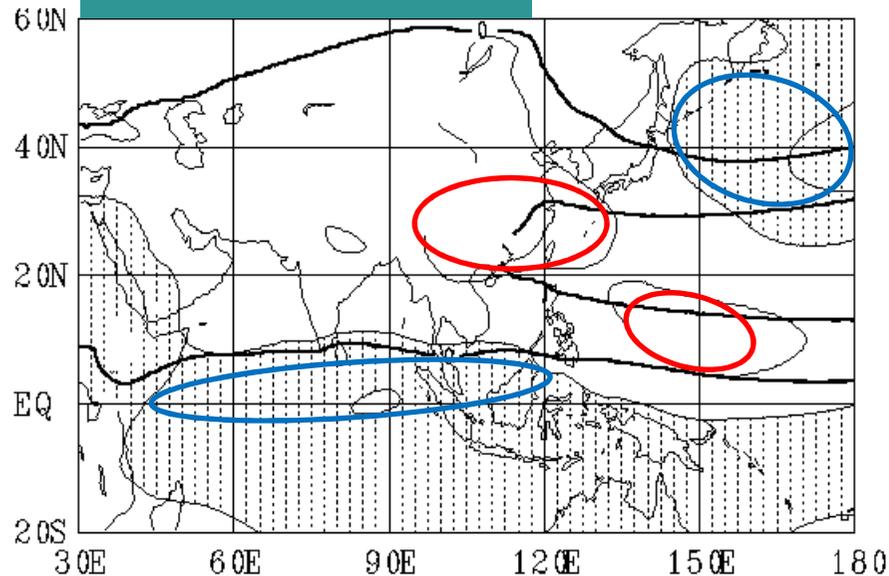
インド洋とフィリピン付近で多雨偏差の一方、日付変更線の西で少雨偏差。東日本太平洋側から沖縄・奄美にかけても少雨偏差。

200hPa流線関数



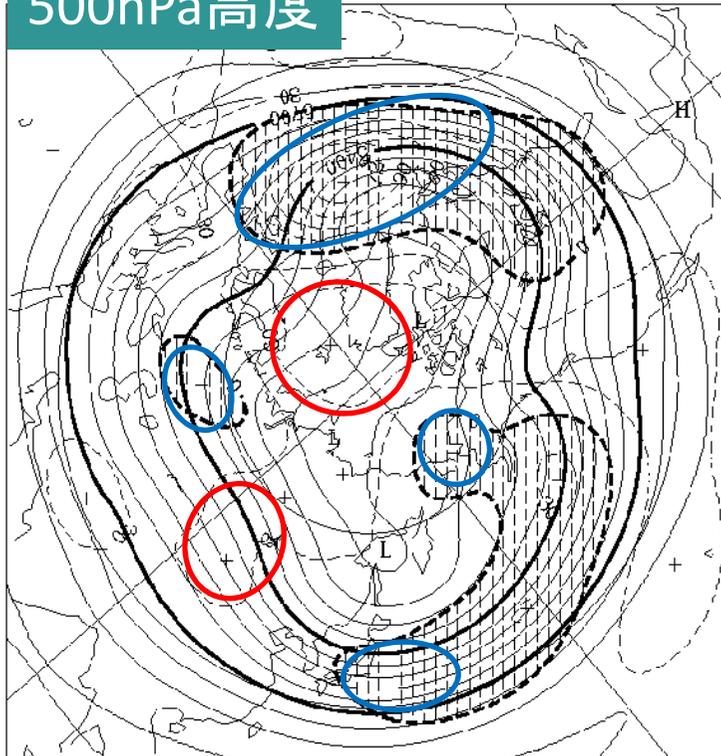
華南から東シナ海にかけて高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

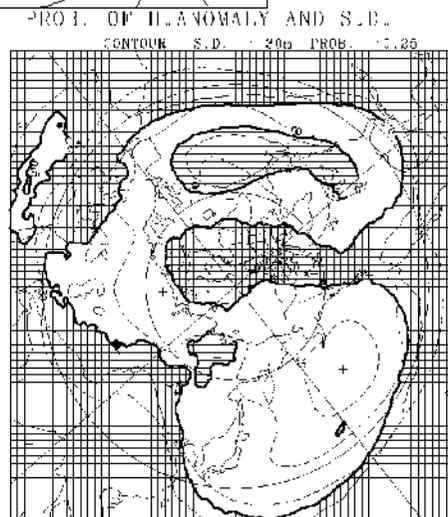
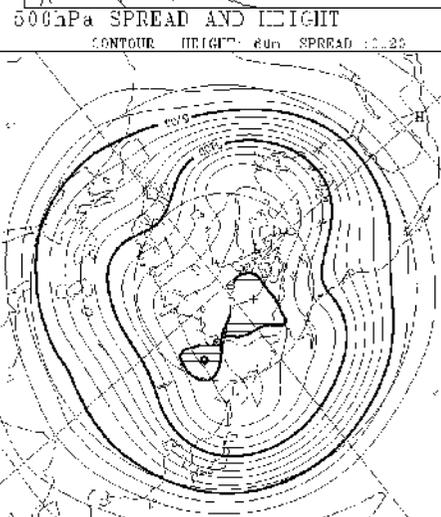


熱帯の対流活発の影響で、インド洋からインドネシア付近にかけて低気圧性循環偏差、フィリピンの東で高気圧性循環偏差。また、華南から東シナ海にかけて高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。日本の東で低気圧性循環偏差。

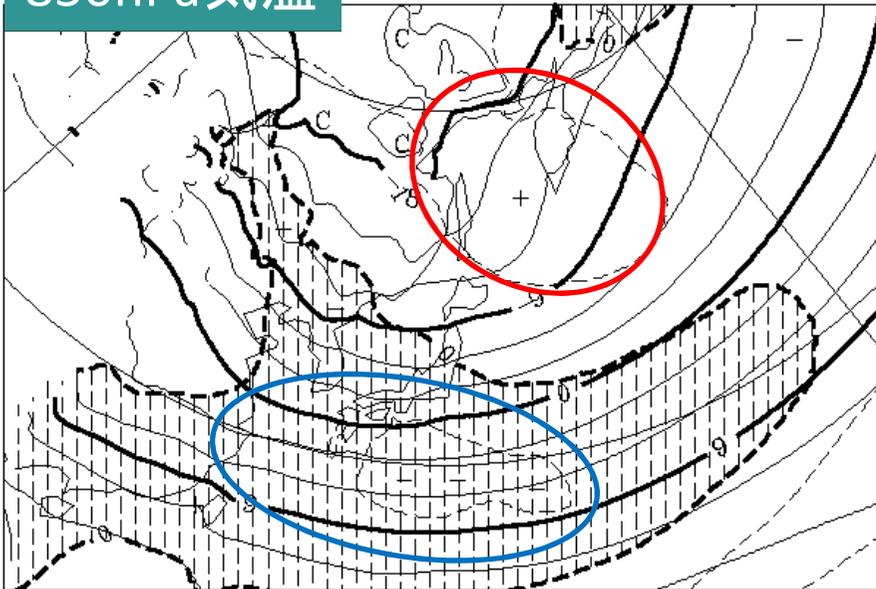
500hPa高度



寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播が明瞭で、日本の東は負偏差で東谷。1週目を中心に負の北極振動となり、日本付近にも強い寒気が流れ込む時期がある。

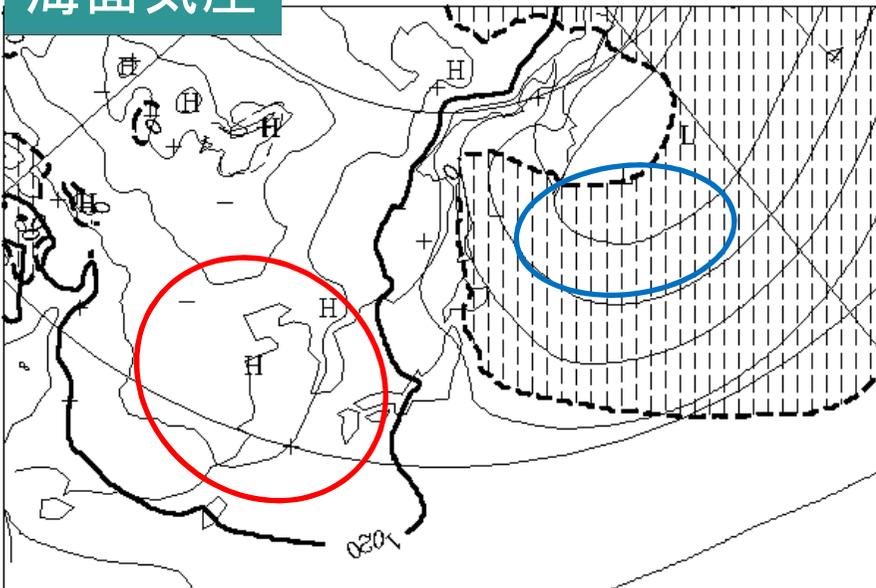


850hPa気温



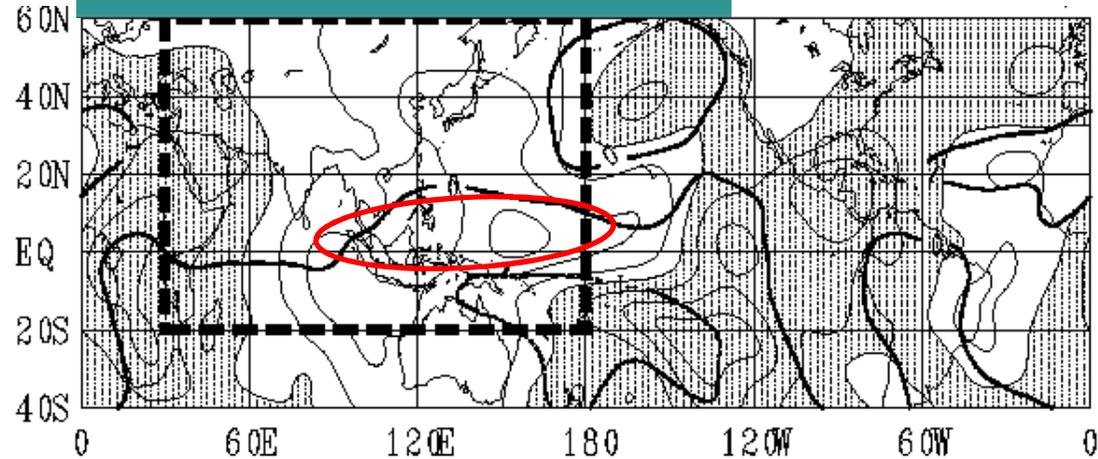
日本の南で負偏差で、東・西日本と沖縄・奄美では期間の前半に寒気の影響を受けやすい。一方、オホーツク海から千島近海にかけて正偏差で、北日本では期間の後半は寒気の影響を受けにくい。

海面気圧



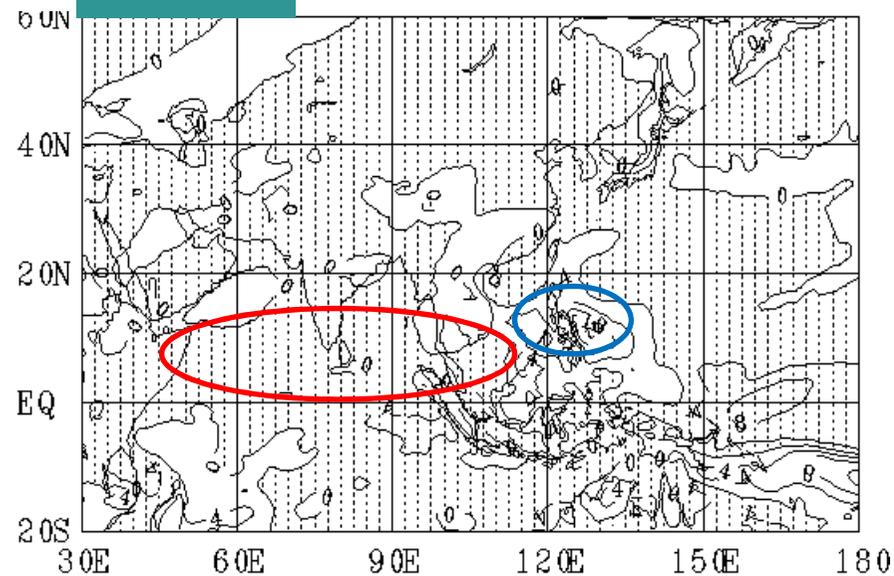
カムチャツカの東を中心に負偏差で、シベリア高気圧が日本の南に張り出し、期間の前半は北・東日本を中心に冬型の気圧配置が強まる時期がある。また、期間の後半は北日本を中心に低気圧の影響を受けやすい時期がある見込み。東・西日本太平洋側では低気圧の影響を受けにくい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



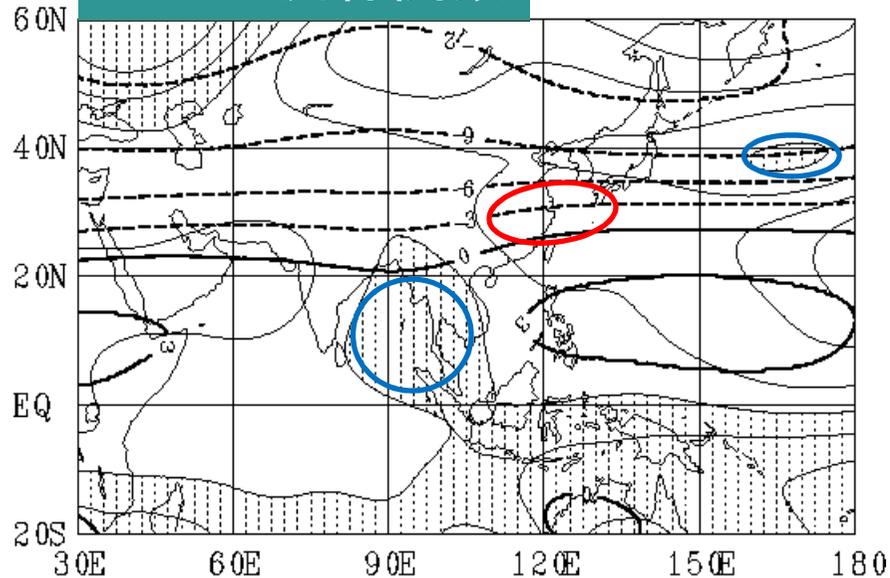
太平洋西部を中心に上層収束偏差。

降水量



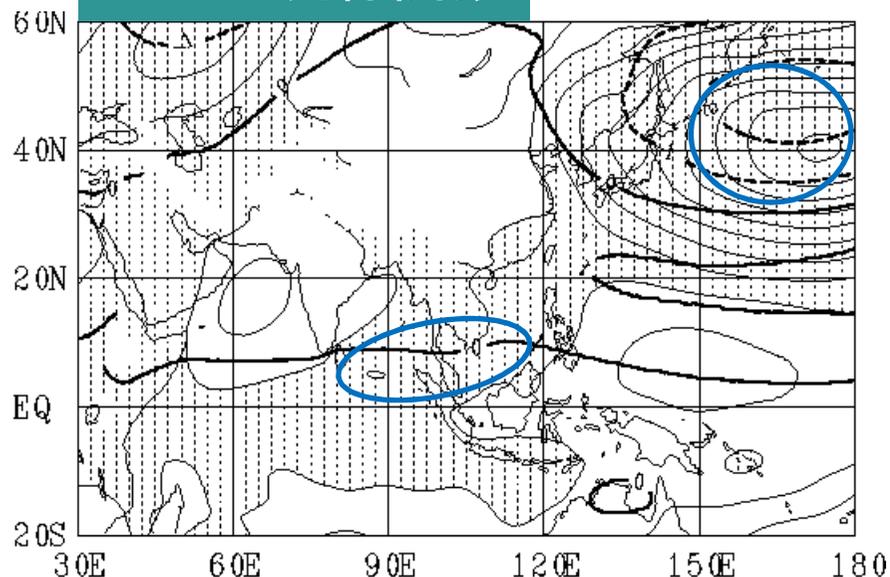
インド洋で少雨偏差、フィリピン付近で多雨偏差。

200hPa流線関数



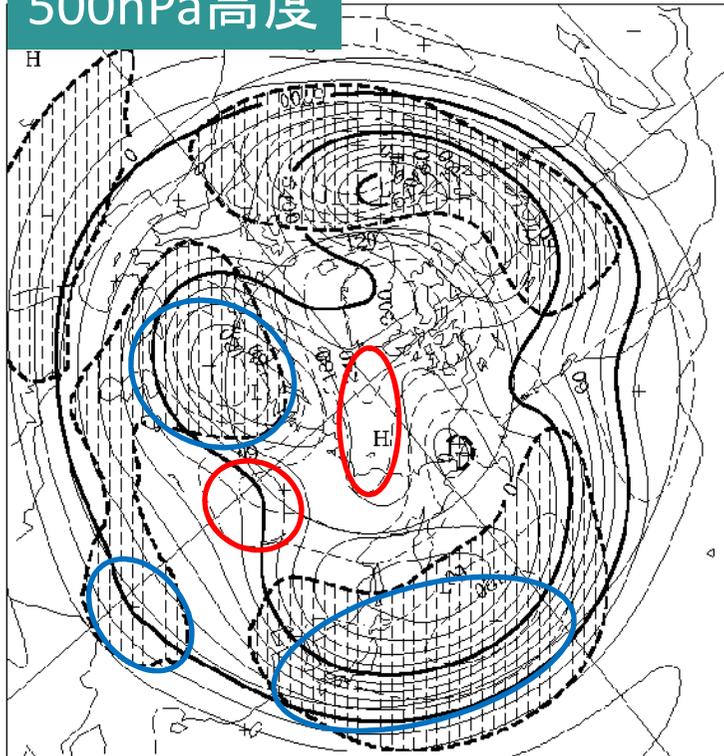
華南から東シナ海にかけてを中心
に高気圧性循環偏差、ベンガル湾
付近と日本のはるか東で低気圧性
循環偏差。

850hPa流線関数



インド洋東部から南シナ海で低
気圧性循環偏差。また、日本
のはるか東を中心に低気圧性
循環偏差で、順圧的な鉛直構
造。

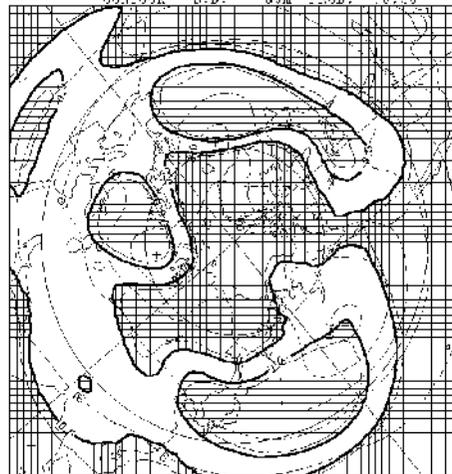
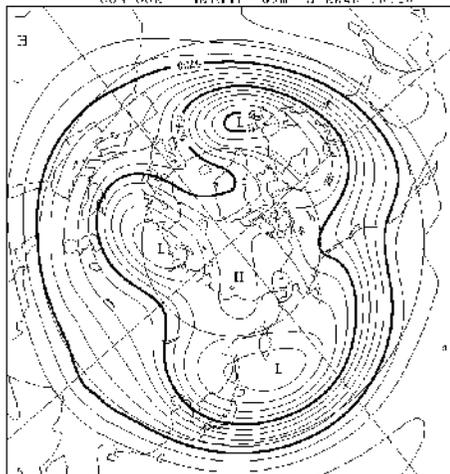
500hPa高度



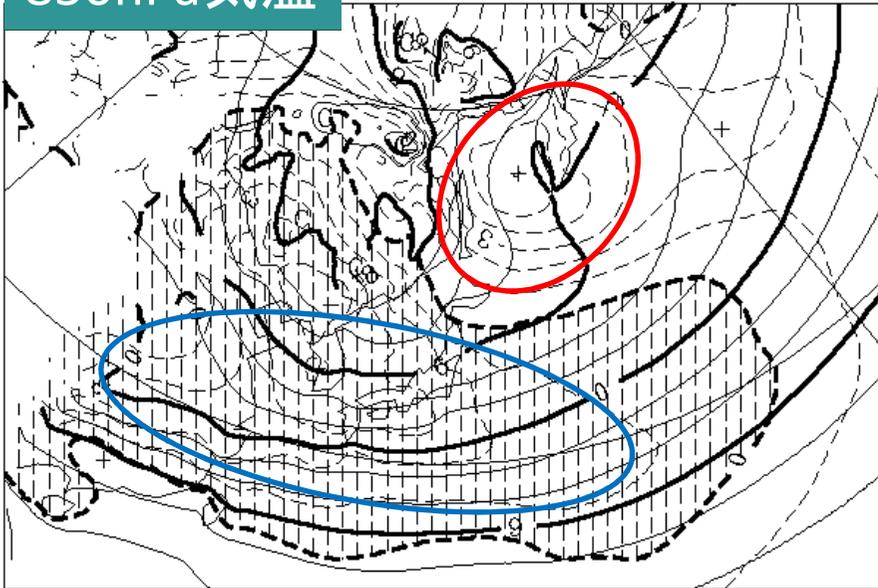
寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播と亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播が合わさり、日本付近はトラフで負偏差。北極付近は正偏差で、千島付近には寒冷渦があり、日本付近には西回りで寒気が流れ込みやすい。

500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

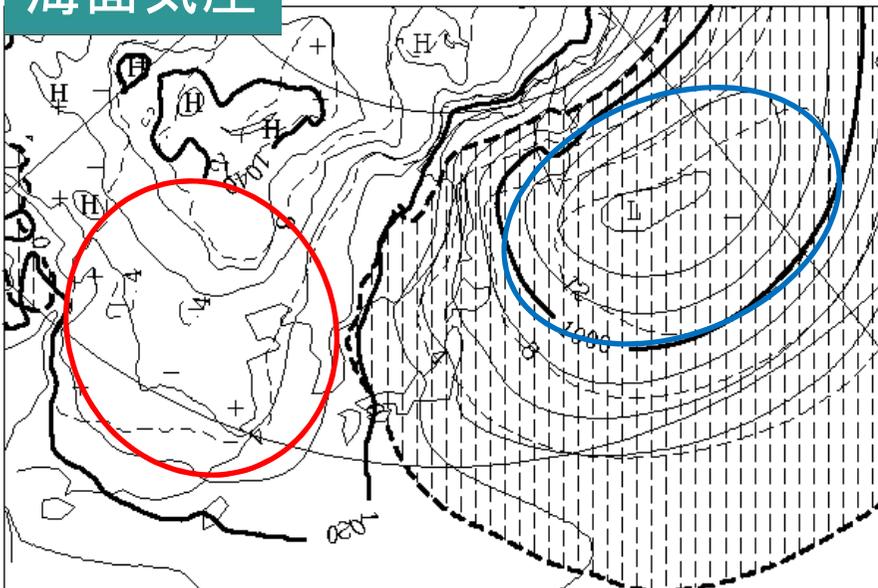


850hPa気温



西日本と沖縄・奄美を中心に
本州以南は負偏差。一方、オ
ホーツク海付近は正偏差。

海面気圧



千島の東で低気圧が強い一方、
シベリア高気圧が東シナ海に
張り出し、北・東日本を中心に
冬型の気圧配置が強まりやす
い。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、冬型の気圧配置が強まりやすいため、平年に比べ曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東日本日本海側では、冬型の気圧配置が強まりやすいため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 東日本太平洋側では、低気圧の影響を受けにくいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、低気圧や寒気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

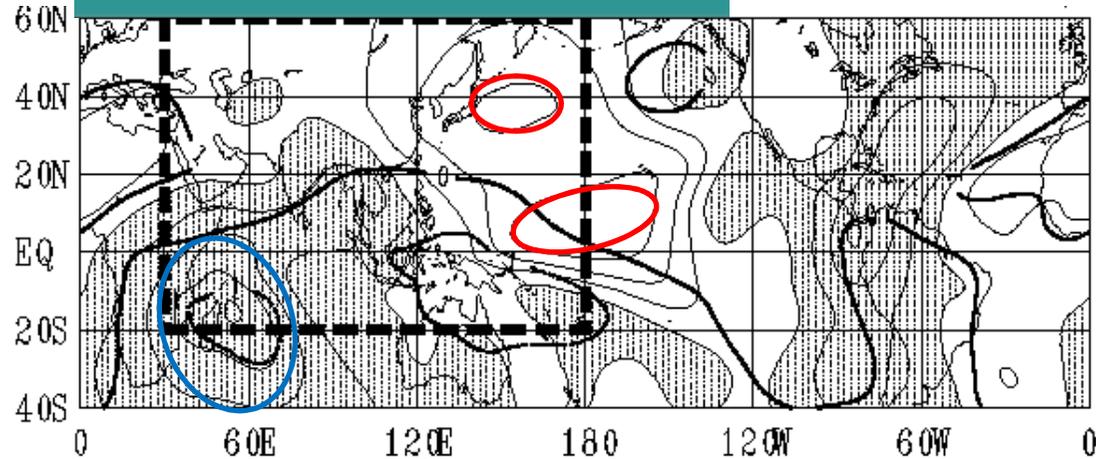
<気温>

- ・ 東・西日本と沖縄・奄美では寒気の影響を受けやすく低温で、沖縄・奄美ではかなりの低温となる見込み。北日本では並温。

<天候>

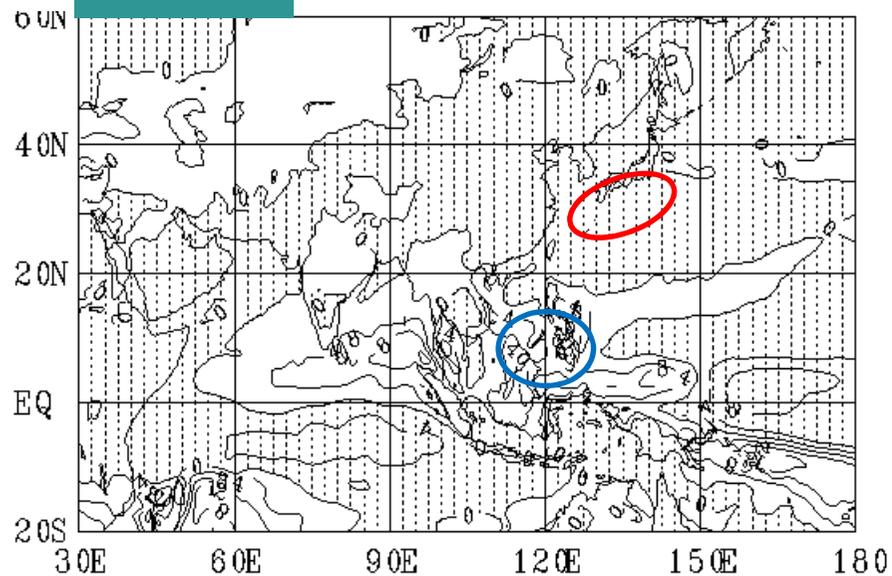
- ・ 北・東日本を中心に冬型の気圧配置が強まりやすく、東日本太平洋側では低気圧の影響を受けにくい。
- ・ 西日本では期間のはじめに低気圧や前線の影響を受け、期間の後半は冬型の気圧配置が強まるため、天候はほぼ平年並。
- ・ 沖縄・奄美では期間のはじめに低気圧の影響を受け、期間の後半は寒気の影響を受けるため寡照傾向。

200hPa速度ポテンシャル



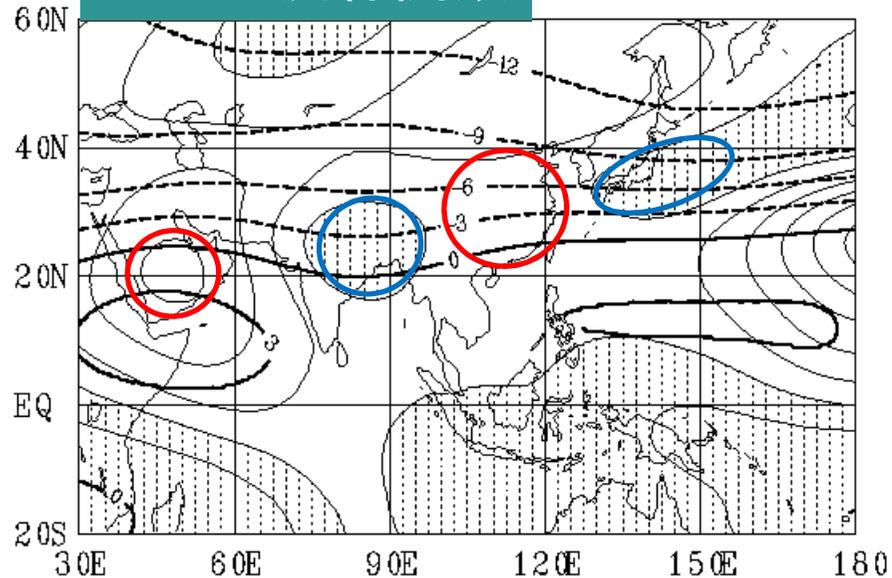
インド洋西部を中心に上層発散偏差、日付変更線付近と日本の東で上層収束偏差。

降水量



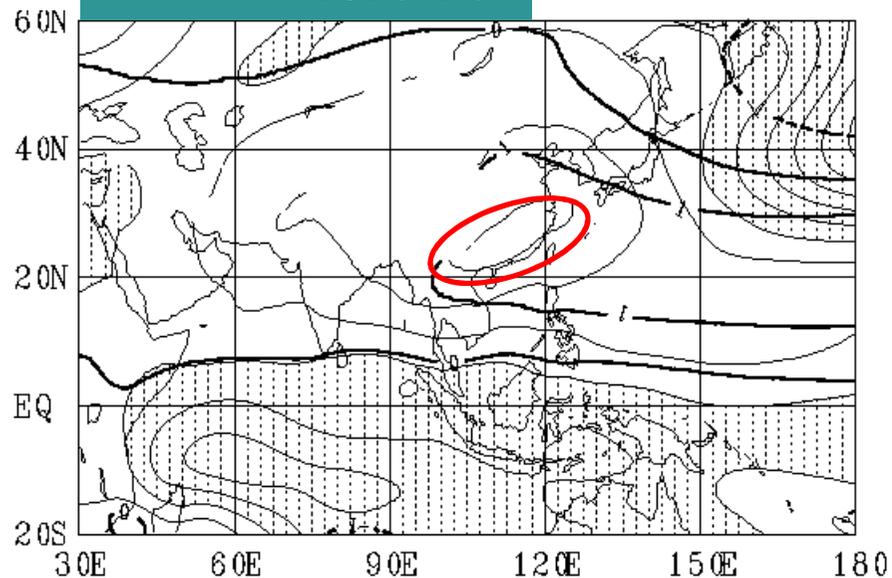
フィリピン付近は多雨偏差。日本付近は東日本太平洋側から沖縄・奄美にかけて少雨偏差。

200hPa流線関数



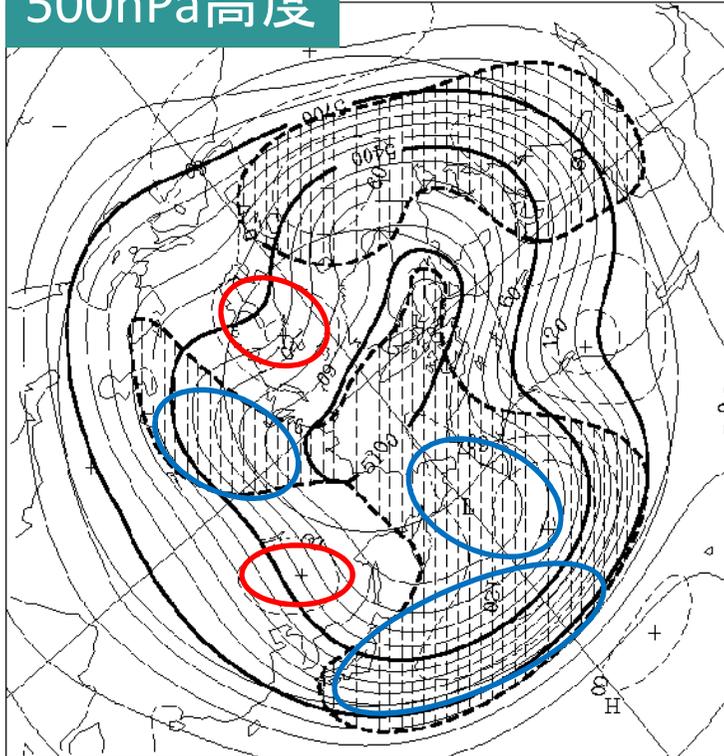
アラビア半島付近で高気圧性循環偏差で、熱帯の対流活動が寄与。亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播により、インド付近と日本付近は低気圧性循環偏差。華南付近は高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



華南を中心に高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。

500hPa高度



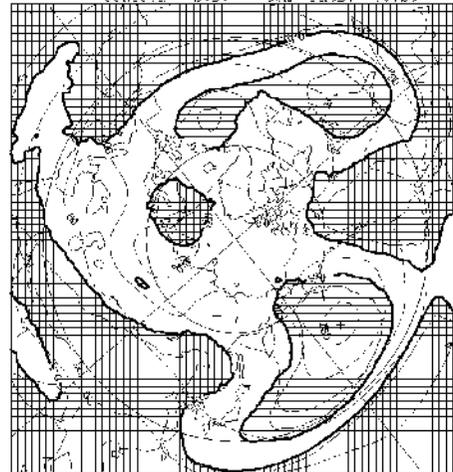
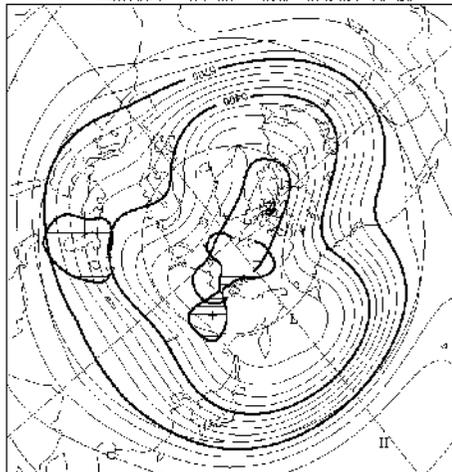
寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播と亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播が合わさり、日本付近は東谷で負偏差。寒冷渦はベーリング海に移動。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

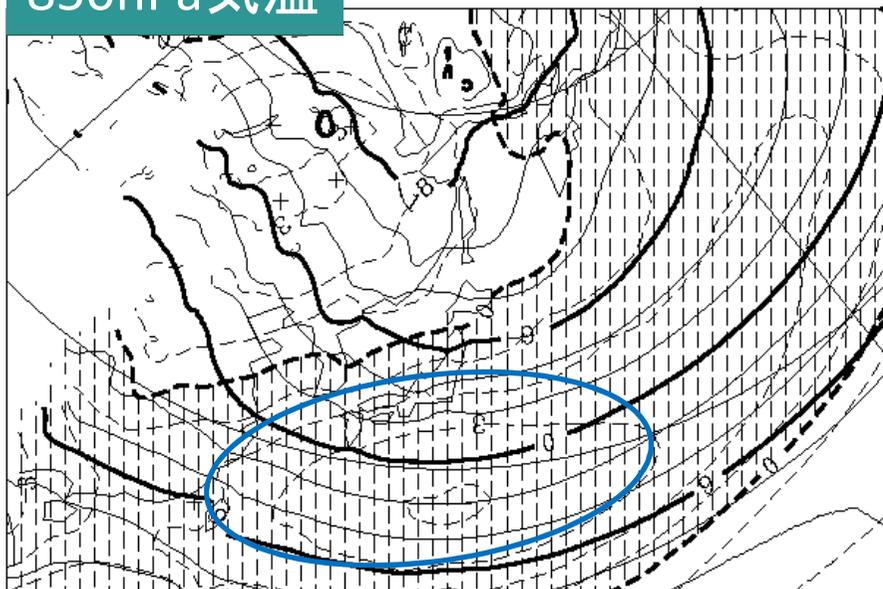
PROB. OF FLAKOM.A.Y AND S.D.

CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20

CONTOUR S.D. 30m 2203 0.25

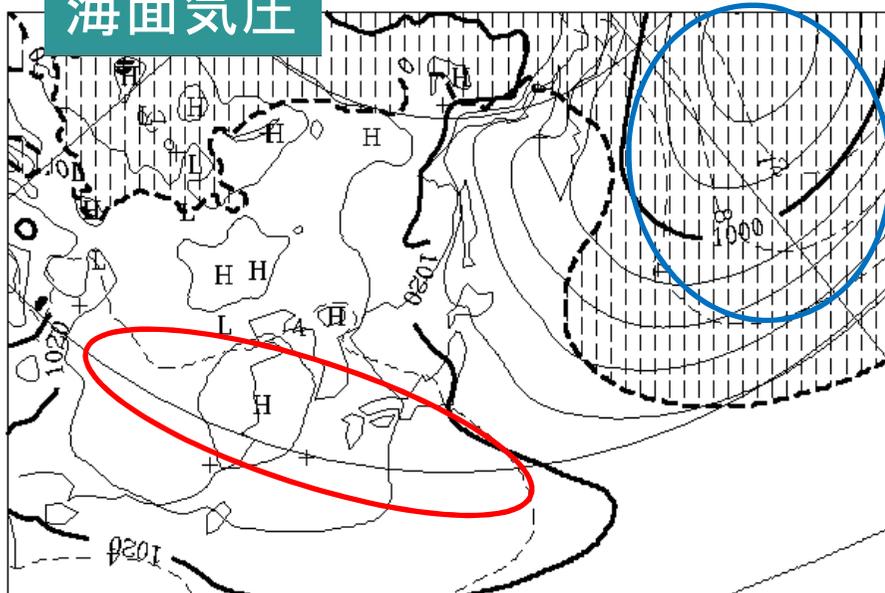


850hPa気温



沖縄・奄美を中心に本州以南は負偏差。

海面気圧



日本のはるか東で負偏差で、シベリア高気圧が日本の南に張り出し、北・東日本を中心に冬型の気圧配置。一方、東・西日本太平洋側を中心に低気圧の影響を受けにくい。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本太平洋側では、低気圧の影響を受けにくいいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

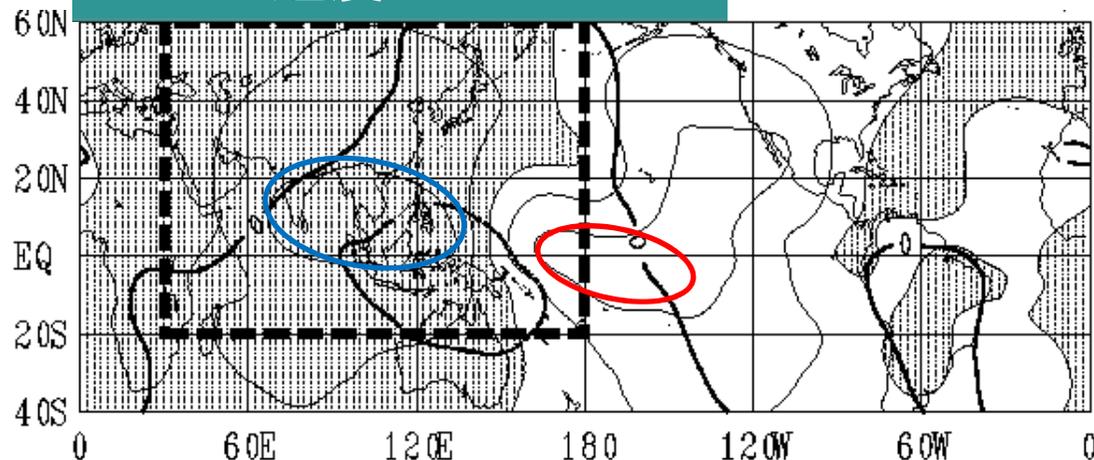
<気温>

・東・西日本と沖縄・奄美では寒気の影響を受けやすく、かなりの低温となる見込み。北日本では並温。

<天候>

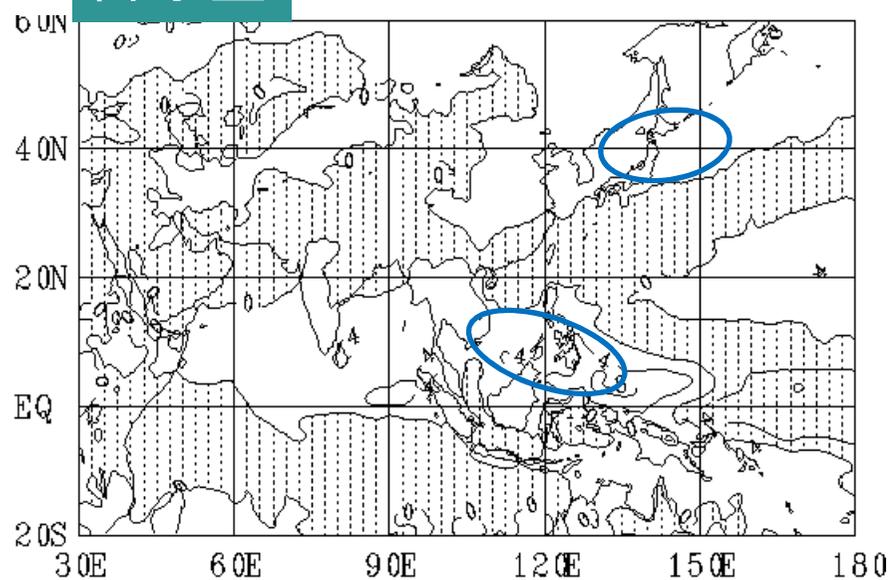
・東日本太平洋側と西日本では低気圧の影響を受けにくく、北日本太平洋側では低気圧の影響をやや受けにくい。
・沖縄・奄美では、低気圧の影響を受けにくいだが、寒気の影響を受けやすいため、天候はほぼ平年並で少雨傾向。

200hPa速度ポテンシャル



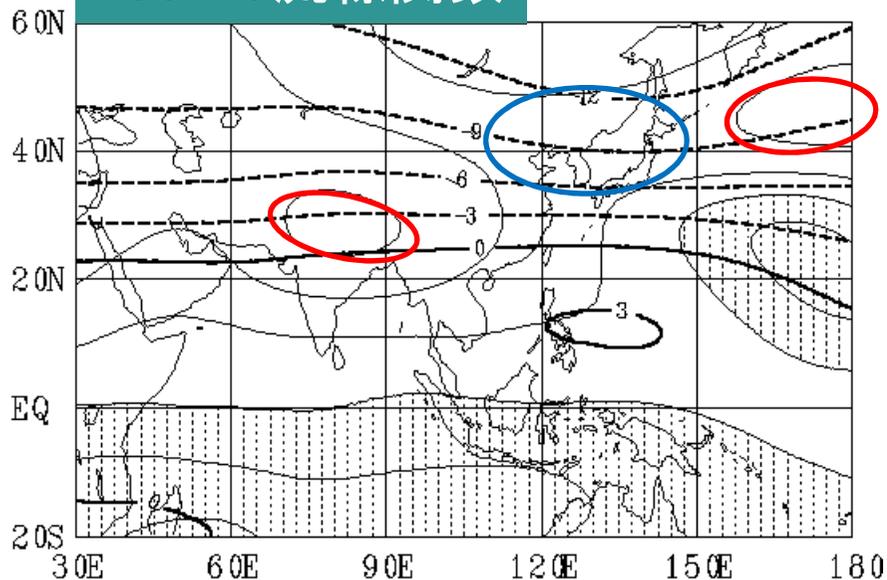
インドからインドネシア付近にかけてを中心に上層発散偏差、日付変更線付近で上層収束偏差。

降水量



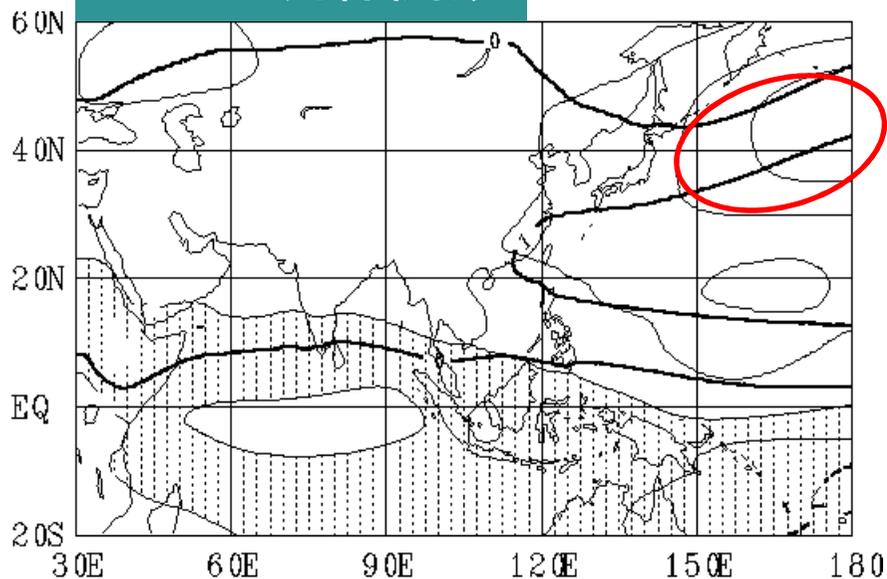
南シナ海からフィリピン付近にかけて多雨偏差。日本付近も北日本を中心に多雨偏差で、低気圧の影響を受けやすい時期がある。

200hPa流線関数



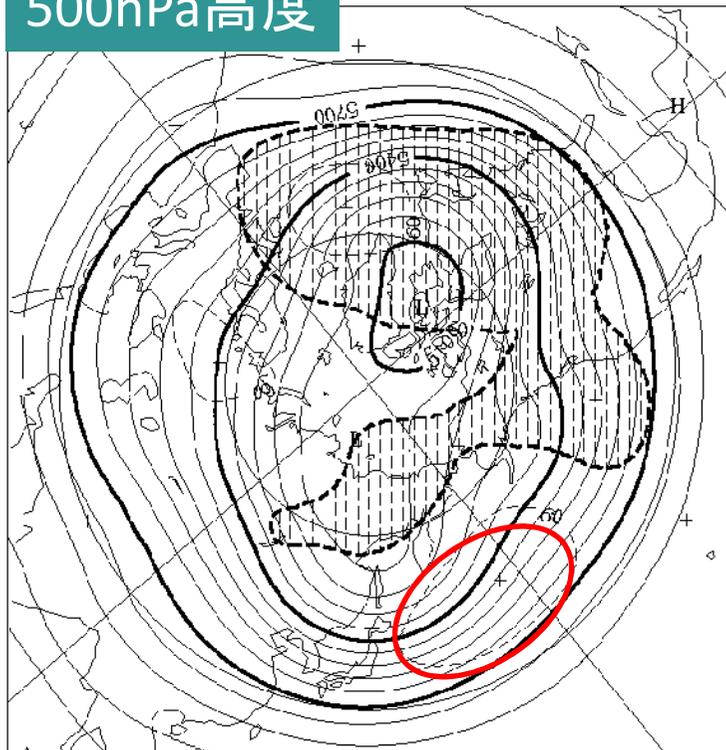
チベット付近を中心に高気圧性循環偏差。この偏差の形成には、熱帯の対流活動が寄与。日本のはるか東は高気圧性循環偏差で、日本付近は相対的な低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



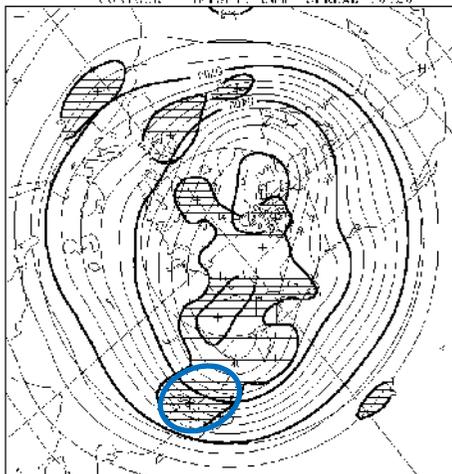
日本の東で高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。

500hPa高度



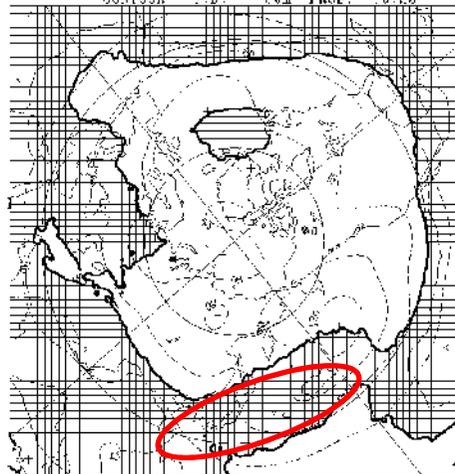
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



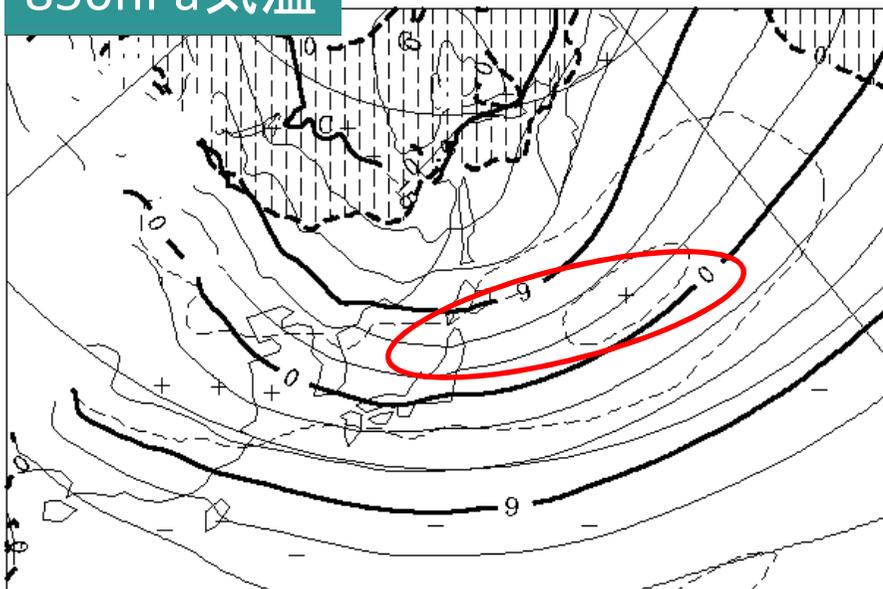
PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25



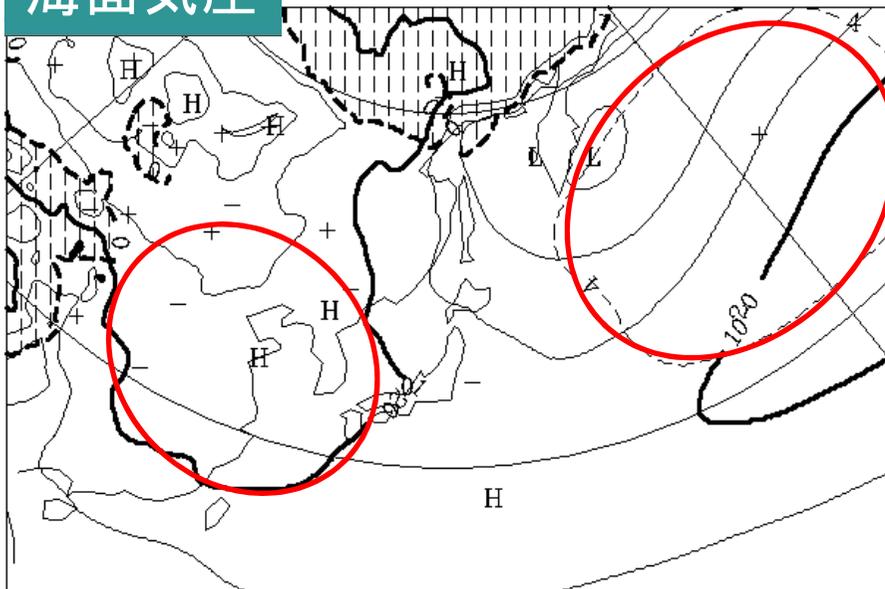
日本の東を中心に正偏差。日本付近は西谷で、北日本を中心に低気圧の影響を受けやすい時期がある。ただし、日本付近のスプレッドが大きく、寒帯前線ジェット気流沿いの波東伝播の不確実性は大きい。日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われるが、亜熱帯ジェット気流沿いの波東伝播の影響で一時的に寒気の影響を受ける時期もあると見込む。

850hPa気温



北日本を中心に正偏差。

海面気圧



シベリア高気圧が東シナ海に張り出すが、アリューシャン低気圧は弱く、日本付近では冬型の気圧配置が長続きしない。北日本を中心に低気圧の影響を受けやすい時期がある。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
- ・ 北日本太平洋側では、低気圧の影響を受けやすい時期があるため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・ 東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

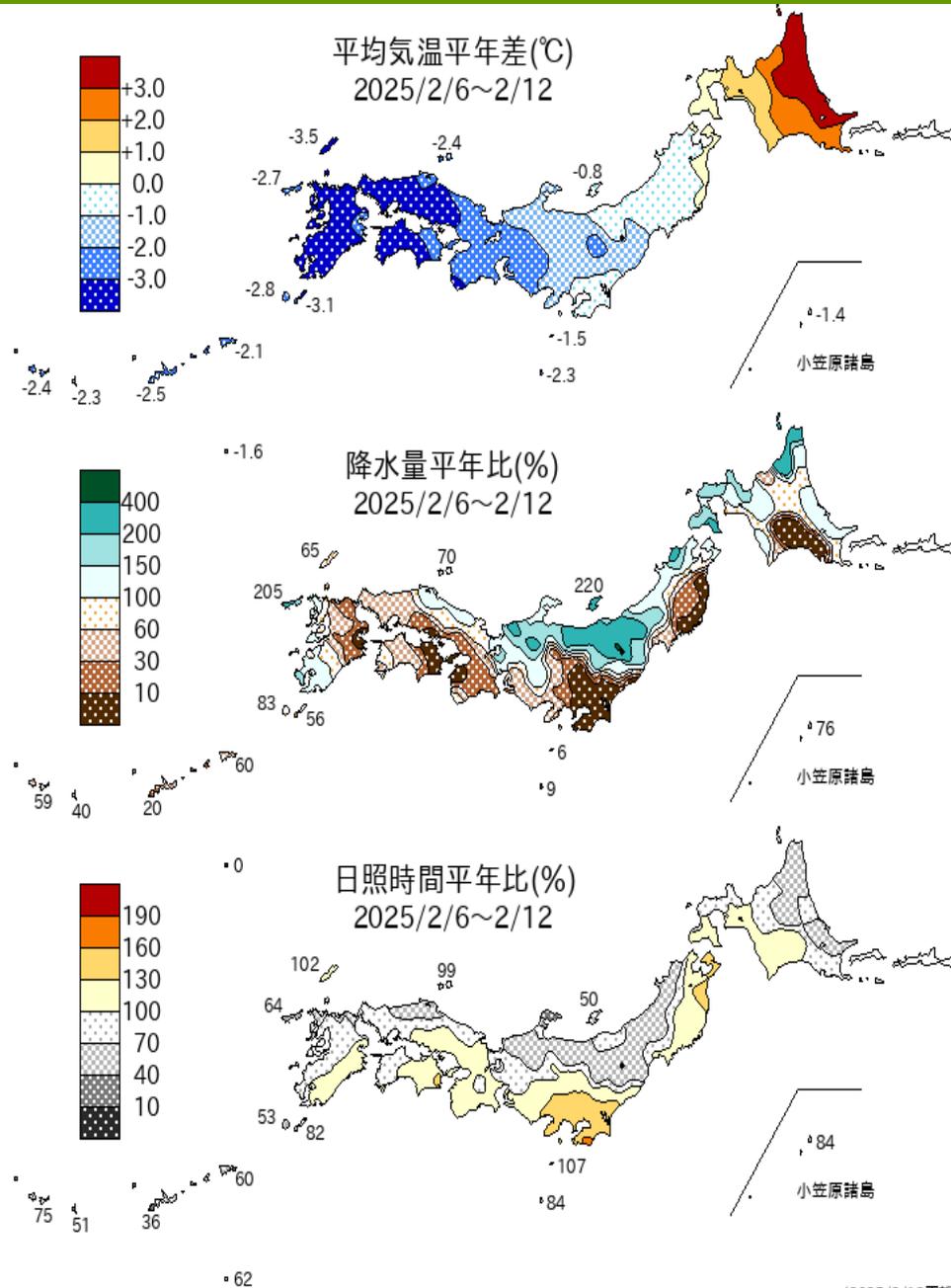
<気温>

- ・ 寒気の影響が弱いため、北日本では高温、東・西日本と沖縄・奄美は並温。

<天候>

- ・ 北日本を中心に低気圧の影響を受けやすい時期があり、東日本でもやや受けやすい。

最近1週間の天候経過



最近1週間(2月6日~2月12日)は、期間の中頃にかけて冬型の気圧配置が強まり、太平洋側では低気圧の影響を受けにくかったため、降水量は北・東日本日本海側では平年を上回り、北・東・西日本太平洋側、西日本日本海側、沖縄・奄美では平年を下回りました。日照時間は北・東・西日本日本海側と沖縄・奄美では平年を下回り、北・東・西日本太平洋側では平年を上回りました。気温は西日本と沖縄・奄美を中心に寒気の影響を受けやすかったため、本州以南ではおおむね平年を下回りました。一方、北海道は寒気の影響を受けにくかったため平年を上回りました。